

新型インフルエンザについて

平成21年5月にメキシコで発生したブタ由来の新型インフルエンザA(H1N1)は世界的な大流行をおこし、日本においても大きな社会問題となり、多数の問題を提起しました。

過去において世界的に大流行をおこしたインフルエンザは大正7～9年のスペインかぜ(H1N1)、昭和32～33年のアジアかぜ(H2N2)、昭和43～45年の香港かぜ(H3N3)が認知されており、各々2回にわたって大流行をおこしています。

今回の新型インフルエンザはスペインかぜに類似していて、過去の例より今後再び大流行をおこす事が考えられます。今年の末から来年にかけての流行に注意が必要です。新型インフルエンザは重症の肺炎を合併する事がわかっていて治療が遅れると生死にかかわる事も考えられます。

インフルエンザ罹患による症状の重症化を防ぐためには、予防や早期診断・治療が必要となります。

予防には日常生活での注意が必要です。できる限り人混みを避け、手洗い、うがい、マスクの使用、咳エチケットなどが有効です。予防接種も50～60%の有効性があり、特に喘息などの呼吸器疾患のある方には非常に有効であり、毎年予防接種をすることが勧められます。発病早期にはインフルエンザの検査も陽性にでない事もあります。早期の服薬がインフルエンザの重症化を予防します。検査の陽性の有無にかかわらずインフルエンザが疑わしい場合は、インフルエンザ治療薬を投与します。インフルエンザの流行時には発熱があれば早期に医療機関の受診をお勧めします。